

2022年（令和4年）度

特定非営利活動法人 **子どもの森**

総 会 議 案 書



四季をまるごと体験 ecoスクール（開校）

日 時：2022年4月24日（日）9時00分～

場 所：森の^{もり}学舎^{まなびや}

総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 議長選出
- 5 3. 議事録署名人任命
4. 資格審査報告
5. 報告事項
 - I. 2021年度活動経過報告
 - II. 、 、 活動決算報告
 - 10 III. 監査報告
6. 議案
 - I. 2022年度活動方針（案）
 - II. 、 、 活動計画書（案）
7. 議長降壇
- 15 8. 閉会のことば

お楽しみ会（11：00～）

総 会	日 時	場 所
設立総会	平成15年7月12日（土）13:00	子どもの森事務所
第2回通常総会	平成16年4月15日（木）10:30	子どもの森事務所
臨時総会（第3回）	平成16年11月19日（金）19:30	クリエイティブセンター門川
第4回通常総会	平成17年5月8日（日）10:00	門川町商工コミュニティセンター APIO
第5回通常総会	平成18年4月22日（土）18:00	門川町中央公民館
第6回通常総会	平成19年5月20日（日）16:00	ガーデンベルズ延岡エメラルドの間
第7回通常総会	平成20年5月17日（土）10:00	（仮称）森の学舎（旧西門川小学校松瀬分校）
第8回通常総会	平成21年4月25日（土）10:00	森の学舎
第9回通常総会	平成22年4月25日（日）10:00	森の学舎
臨時総会（第10回）	平成22年10月13日（水）19:30	クリエイティブセンター門川
第11回通常総会	平成23年4月24日（日）9:30	森の学舎
第12回通常総会	平成24年4月22日（日）9:30	森の学舎
第13回通常総会	平成25年5月6日（月）9:30	森の学舎
第14回通常総会	平成26年4月27日（日）9:30	森の学舎
第15回通常総会	平成27年4月29日（水/祝）9:30	森の学舎
第16回通常総会	2016年4月29日（金/祝）9:30	森の学舎
第17回通常総会	2017年4月29日（土/祝）9:30	森の学舎
第18回通常総会	2018(平成30)年4月22日（日）9:30	森の学舎
第19回通常総会	2019(平成31)年4月21日（日）9:30	森の学舎
第20回通常総会	2020(令和2)年4月26日（日）9:00	森の学舎
第21回通常総会	2021(令和3)年4月25日（日）9:00	森の学舎
臨時総会（第22回）	2021(令和3)年6月27日（日）13:00	森の学舎

報告事項Ⅰ. 2021年度活動経過報告

1. 事業の成果

- 5 ① 環境プログラム（川をたのしく親しもう、森であそぼう、春を楽しもう）を開催することで、里山等の自然体験交流と自然環境を理解してもらうための啓発活動ができた。
- ② 県北地域の親子が、10カ月間を通して自然環境を考える体験型環境学習（四季をまるごと体験 eco スクール）で、より深く多面的に自然環境を理解してもらう啓発活動ができた。
- ③ 耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働きを戻し、里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあり存在する魅力や価値を後世に繋ぐ活動ができた。
- 10 ④ 環境文庫（森の学舎）にて、森の学舎の土日活用と環境問題全般を学習できる場を提供することができた。
- ⑤ 放置されている里山を整備して体験型環境学習の広場作りの実施にて、森林環境の保全活動ができた。
- ⑥ Web ページと facebook により、活動の情報発信と環境問題の啓発活動ができた。

15

2. 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

（1）農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

- 20 ① 四季をまるごと体験 eco スクール（第11期）
- ・実施日：5月15日（県独自の新型コロナウイルス感染拡大防止のため午前中のみ開催）
5月29日（県独自の新型コロナウイルス感染拡大防止のため午前中のみ開催）、7月24日
8月28日（県独自の緊急事態宣言のため午前中のみ開催）、11月20日、12月11日
(2022年)1月22日、2月11日 計8日間
 - ・実施場所：森の学舎、eco スクール麦畑、森の学舎周辺
 - 25 ・参加者：12家族25人（内小学校3年生～6年生は14人）
 - ・スタッフ：延べ7人
 - ・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、門川町教育委員会
 - ・助成等：子どもゆめ基金
 - 30 ・内容：地域の小学生とその保護者に対して、四季を通じた自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し将来の自然環境の守り手に育ててもらうために、10カ月の期間を通して同じ参加者によるスクール形式で下記のことを実施しました。
 - ・参加者学校：五十鈴小学校3名、財光寺南小学校2名、美郷北義務教育学校5名、平岩小中学校2名（小学生のみ）財光寺小学校2名、延岡小学校1名、東郷学園1名

35

- 1) 麦刈り
- 2) 麦の脱穀
- 3) ダンボールコンポスト
- 4) 森の学舎周辺道路の清掃
- 5) 田んぼの生き物調査
- 40 6) ネイチャーゲーム
- 7) ソーラークッキング
- 8) 樹木の二酸化炭素吸収量の計算
- 9) 麦畑づくり、麦種播き
- 10) ネイチャー工作
- 45 11) 海水を使つての塩づくりとニガリ採取
- 12) 石臼による小麦挽き
- 13) パンづくり（イチゴ酵母とバター作り含む）

他に、スタッフが各回に実施する内容の準備や後片付け等を下記の通り行いました。

5月4日、5日：麦刈りの準備

- 5月23日：脱穀の準備
- 9月4日：海水汲み
- 11月14日：麦畑作りの準備
- 1月16日：4個の石臼のメンテナンス、塩作り用かまどを4カ所設置
- 2月11日：簡易パン窯を2基設置、パン作り資材準備と教室の作業レイアウト

② 休耕田復活プロジェクト

＜テーマ＞耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働き（作物が育ちやすい土作り、水をきれいに
10 する、上流の森林の豊かな資源の有効活用、周りの気温や湿度を守る、地下水の量を一定に保つ、
洪水や土砂崩れを防ぐ、いろいろな生物が住む「家」の働き）を戻し、里山の自然景観を守り、存
在する魅力や価値を後世に繋いで行く。

＜内容＞松瀬地区の休耕田に、セイタカワダチソウ等の背の高い雑草が増殖しはじめ、著しく自然
15 景観が悪くなってきて、イノシシ等の害獣の絶好の遊び場となっている。この休耕田を元の田んぼ
に戻し、無農薬で人の手作業による米作り体験の場（約250㎡）とする。稲刈り後、翌年の田植えま
での期間はレンゲ畑とする。地元農家の方の指導と支援を受けて活動を進める。参加者を募って、
田植え（もち米）、草取り、稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実
施して行く。

＜目的及び効果＞私たちが食料の生産、共有、消費の方法を考え直す時が来ている。農林水産業は
20 適切に機能すれば、すべての人に栄養豊富な食料を提供し、農村開発を支え環境を守ることができ
る。それらを、米作りを通して考えてもらい、地球環境に負荷をかけないで自分たちにできる取組
への気づきを促し、里山や中山間地域（松瀬）の自然景観を一緒に復元し、その魅力を発信させる
ことができる。

・実施場所：松瀬地区の耕作放棄の田んぼ

・助成等：門川町ががんばる地域応援事業

・実施日と内容

4/29、30、5/2、3、30（ボランティアとスタッフ）

：田植えの準備（草刈り→耕うん→畔修理→水張り→畦の草刈り→代かき）

6/6（参加者25人、スタッフ5人、指導者1人）：田植え

6/27（参加者3人、スタッフ3人）：草取り、ネイチャーゲーム

7/11（参加者9人、スタッフ4人）：草取り、ネイチャーゲーム、田んぼの環境チャック

9/4（スタッフ3人）：防獣（イノシシ）金網の修理

10/16（スタッフ2人、指導者1人）：稲刈りの準備

10/17（参加者12人、ボランティア9人、スタッフ5人、指導者1人）：稲刈り

10/30（スタッフ3人、ボランティア1人）：脱穀の準備

10/31（参加者7人、ボランティア4人、スタッフ5人）：脱穀

12/19（参加者26人、ボランティア3人、スタッフ6人）：収穫祭（餅つき）

③ 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

40 一昨年（2019年）度の四季をまるごと体験e c oスクールでコマ打ち（植菌）して仮伏せから本伏せ
にした原木以外は、ほぼ朽ちてしまっていて少量の椎茸しか発生しませんでした。発生した椎茸は、活動に
参加した会員やボランティアにて収穫をしました。今年（2022年）度以降は、椎茸の収穫はあまり期待
できないと思います。

(2) 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

① 子どもの森1号地（杉と広葉樹の混交林）

2006年3月に400本を植樹した子どもの森1号地は、苗木も大きくなり下草刈の必要がなくな
り、センダンの樹高は3m以上になり、その他種の樹木も人間の背丈よりも高くなっています。現在は、
50 自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

② GOCANの森（門川高校演習林災害跡の再生）

門川高校生と協働して実施した森林の再生活動（2007年3月に植樹、2013年3月に補植樹）をした門川高校実習林の苗木が大きくなり下草刈の必要がなく、ケヤキの樹高は3m近くなり、ヤマザクラは花を咲かせています。現在は、子どもの森1号地と同様に自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

③ 妖精の森（放置竹林の広葉樹林への復元活動）

手入れがされず放置されている竹林（森の学舎裏の竹林）を、雑木林に再生し、人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、2009年度から継続して竹の伐採を続けてきました。これまで伐採した竹林の面積は約0.2haを超え予定していた範囲の伐採は、2016年度に終了しています。当年（2021年）は、2022年3月6日に伐採跡地に生えていた竹の伐採を行いました。

④ お地藏さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

放置されている里山を整備して体験型環境学習の広場作りを、2019年から実施しています。森林の体験型環境学習のため広場を整備し、水辺の体験型環境学習で活用するために松瀬川（五十鈴川支流）への昇降道も整備しています。今年度は、広場の整備として樹木伐採や枝打ち等と、松瀬川への昇降道作り、樹木プレート14種の設置を行いました。

参加者：延べ16人

活動日と内容：

7/4 広場と松瀬川昇降道の中間に位置して作業場所になっている廃町道の土砂整理と草刈り。松瀬川との昇降道（第2ルート）の草刈り。お地藏さん広場への昇降道の草刈り。希少植物を保護するために柵の設置。

9/26 松瀬川との昇降道（第1ルート）の制作。

11/7 松瀬川との昇降道（第1ルート）の追加作業。

10/30 枝打ちと落とした枝の玉切。

2/27 樹木プレートの設置。

(3) 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

① 川を活用した自然体験交流（川をたのしく親しもう）

ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し自然と自分が一体であること、参加者は、川あそびを通して自然の豊かさを楽しみ自然の大切さを学びました。

・実施日：8月1日

・実施場所：森の学舎と五十鈴川

・参加者：21人（内子どもは9人、就学前幼児は5人）

・スタッフ：5人（内ネイチャーゲームリーダーは2人）

・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会

・助成等：子どもゆめ基金

・内容：子どもたちとその保護者が、ネイチャーゲームと川あそびと川の生き物調べを通して、豊かできれいな水と、多様な水生動物に触れることで、ふだんの生活では気づくことができなかった自然の大切さを実感でき、きれいな川を守るために必要な自分ができることを考えることができ、自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえる。例年、お楽しみとして素麺流しをしていたが、新型コロナウイルスを配慮して、取り分け形式とした。

・準備：（7月29日）そうめん用竹器の作成×参加予定者分、川遊びの担当確認と事前体験確認、遊ぶフィールドを目で確認できるように下流側にロープ張り、必要なものを川へ移動、フローティングジャケットの用意と更衣所の設置、日除け兼雨に備えてテントを3張設置。

② 竹とドングリを活用した自然体験交流（森であそぼう）

飯ごう炊飯・あぶり焼きソーセージを参加者皆さんで作った。ドングリの苗は、参加者が自宅で育て2年後に森へ戻します。ドングリ等の自然物を使ってのネイチャーワークも行いました。

- 5
- ・実施日：12月5日
 - ・実施場所：森の学舎
 - ・参加者：20人（内子どもは12人で就学前幼児は4人）
 - ・スタッフ：6人
 - ・撮影：株式会社アレックスアトム（森づくりフォーラムで使用する映像）
- 10
- ・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会
 - ・助成等：子どもゆめ基金
 - ・内容：竹を玉きりにして節を利用したポットに、腐葉土を入れてドングリを植える。竹のポットは、参加者が自宅で苗木に育て2年後に山へ戻す。樹木が私たちの生活において排出された二酸化炭素を吸収し私たちの生活に必要な酸素を供給してくれていること理解した。
- 15
- 化石燃料を節約するために薪や炭を使い、飯盒で炊飯をして、ソーセージ生地を竹串に巻いて炙り焼きにした。屋外でのクッキングを通して自然の中に生まれていることを実感しました。他に、竹でマイ箸作りも体験した。
- 20
- 市販されている玩具でなく、木枝・葉・ドングリ等でワークをして、身近にある自然物で楽しく遊べることを実感する体験で、市販している玩具は、エネルギーを多く使って作られているが、自分で工夫するネイチャークラフトは、少ないエネルギーで作ることができ、そのことが地球環境への負荷を軽減できることも知ってもらった。
- ・準備：（11月28日）炙り焼きソーセージの串（50cm）×67本（内12本は事前確認用）
※幅は15mm、竹ポット（根元太い部分で）×参加者数、竹箸キット（長さ23cm、割りばしのように隣同士ペア）×参加者数、竹スコップ（子ども用に軽く小さく）×8個、ソーセージ焼き場（床は耐火煉瓦、周辺はブロック12個）×2箇所。
- 25

③ 野草を活用した自然体験交流（春を楽しもう）

自然を親しみ、自然の豊かさ・大切さを学ぶ活動です。山菜・野草観察を食べる分だけ摘んで参加者の皆さんと一緒に調理していきます。自分の足元から春を感じ、自然環境を考えていきます。今年は寒い日が続き春の訪れが遅れ気味で、野草の芽吹きも例年より遅いようでした。

- 30
- ・実施日：2022年3月21日
 - ・参加者：子ども12人（内幼児4人）、大人13人
 - ・スタッフ：6人
 - ・講師：成迫平五郎氏（宮崎県環境保全アドバイザー）
 - ・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会
 - ・助成等：子どもゆめ基金
 - ・内容：野草の観察と収穫、野草調理（餃子、天ぷら、白和え、おひたし、ピザ）
 - ・準備：（3月13日）会場になる教室の掃除、管理棟と教室棟の渡りの修理
- 40

④ 昆虫の写真を撮ろう

9月11日に開催を計画していましたが、政府のまん延防止等重点措置の指定を受け宮崎県独自の緊急事態宣言として8/27から9/12まで「まん延防止等重点措置」を宮崎市・日向市・門川町を対象地域にしたため中止としました。

45

（4）市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

① 小さな森のマルシェ：3月27日開催（主催者発表1000人の来場者）

gate主催で、森の学舎を会場としたマルシェが、10:00~15:00に開催されました。8月からgate主催者と打ち合わせを続けてきて、子どもの森と松瀬地区との活動との調整を進め、サクラが満開になる時期に開催日を決定しました。前日は激しい雨で開催が危ぶまれたが、当日は大変良い天気となりました。

50

子どもの森もブース出店して、休耕田復活プロジェクトで作ったもち米・森の学舎イチョウの銀杏・竹林整備で焼いた竹炭・ecoスクールで収穫した麦穂、他に松田農園のイチゴを販売しました。
もち米(1g)：10袋、銀杏：9袋、竹炭：3袋、麦穂：4束が販売でき、5450円の売上がありました。

5 (5) 活動の情報発信・啓発のための事業

① Webサイトとfacebookの運営

・実施時期：4月～2021年3月

・概要：子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、月平均3.7回(年計45回)のWebページ更新にて情報発信した。facebookへは、年間20回の投稿を行った。

10

② 機関紙の発行

A4で12ページの子どもの森通信18号を6月に発行しました。

③ 案内チラシの作成

15

・実施時期：各プログラムの開催1カ月～3カ月前

・概要：宮崎県や宮崎県教育委員会等の後援をもらい、それぞれのプログラムの参加者募集チラシを作成した。主に県北の図書館や近隣のスーパー等においてもらった。また、Webページからもダウンロードできるようにした。他の参加者募集の方法として、facebookと地元新聞社(夕刊デイリー、宮崎日々新聞)への掲載をお願いした。

20

四季をまるごと体験ecoスクールの参加者募集チラシは、延岡市・日向市・門川町の教育委員会から後援をもらい、県北一円の小学校の3年生から6年生に、延岡市・日向市・門川町の教育委員会を經由して約7500部を配布した。

(6) その他目的を達成するために必要な事業

25

① みやざき森づくりボランティア協議会の総会

子どもの森が加盟して横山理事長が理事を務めている「みやざき森づくりボランティア協議会」の第20回通常総会を、森の学舎で開催しました。

② 黄色いレシートキャンペーン(7月11日)参加者：横山理事長、横山純子理事、加納理事

30

イオン日向店にて、キャンペーンの普及発展と子どもの森のPRをおこなった。今回でキャンペーンの参加が9回目となる。支援を続けてもらっている店舗への感謝と、お客様に黄色いレシートを子どもの森に投函してもらい、子どもの森の活動を地域に知ってもらうのが目的です。

レシート金額の1%相当額が、活動のために必要な消耗品などの商品がイオン・グループ店舗において寄贈される。子どもの森は、2006年から16年間で、約122万円を寄贈してもらっています。イオンの黄色いレシートで、子どもの森の応援をしてくださっている皆様に感謝します。

35

③ みやざき森づくりボランティア協議会主催の「竹炭づくり」(11月13日)

参加者：横山理事長、横山純子理事、研修場所：森の学舎(子どもの森)

40

竹を焼き始めて6時間で出来上がる予定でしたが、10時間を過ぎても煙の色が透明にならず、午後10時ごろにやっと蓋をしてあとは冷却できる状態になり、炭出しは、一夜明けて14日になりました。丁寧に炭焼窯に竹を詰めたので、綺麗な竹炭を作ることができました。

④ 森の学舎の整備

1) 5月1日～5日：参加者＝延べ12人

45

1日：森の学舎グラウンドと周辺の草刈り

4日：ecoスクール麦畑の草刈りと麦間の草(主にカラスノエンドウ)抜き

5日：麦刈り後のはさ掛け用竹竿の準備

2) 9月4日、5日：参加者＝延べ6人

グラウンドの草刈り、樹木の剪定、休耕田プロジェクトの田んぼの草刈り

50

3) 10月3日：参加者＝3人

グラウンドの草刈り、ecoスクール麦畑の草刈りと茶ノ木の剪定

4) 10月4日：参加者＝3人

2号風呂小屋の杉柱根元と竹瓦が腐食し大変危険な状態であるため撤去

5) 12月30日：参加者＝4人

教室棟の大掃除

6) 1月8日～10日：参加者＝延べ6人

窯小屋修理とアヤメ園作り

7) 12月29日～30日：参加者＝延べ4人

パン窯小屋屋根修理

8) 3月12日：参加者＝3人

2号風呂小屋制作（基礎のみ）

⑤ 森の学舎の活用

1) 訪問者

年間に延べ42人（森の学舎利用と小さな森のマルシェの人出は除く）の森の学舎への訪問者があり、横山理事が、訪問者に子どもの森と森の学舎の説明をおこないました。少ない訪問者ではありましたが、子どもの森の理解を進めることができたと思います。

2) 利用

・6月20日：みやざき森づくりボランティア協議会総会を開催しました。

・9月19日：結婚式用動画撮影でグラウンドを開放しました。

・11月と12月：2名のキャンプ希望者にグラウンドを一般開放しました。

・11月13日：みやざき森づくりボランティア協議会主催の「竹炭づくり」で、子どもの森会員以外で5名の利用者がありました。

3. 寄附金・助成金等

(1) 子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

① 四季をまるごと体験ecoスクール（第11期）の事業費453.2千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が87.5千円と385.1千円の助成を受ける予定です。

② 「川をたのしく親しもう」の事業費75.3千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額と参加費収入の合計は、95.0千円でした。

③ 開催中止となりましたが、「昆虫と友だちになろう」の事業費3.6千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額は、23.2千円でした。

④ 「森であそぼう」の事業費69.5千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額と参加費収入の合計は、87.4千円でした。

⑤ 「春を楽しもう」の事業費64.9千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が18.4千円と66.0千円の助成を受ける予定です。

(2) 森林づくり応援団活動支援（宮崎県森林環境税）

お地蔵さんの森の整備にあたり、高枝チェーンソーと機械のメンテナンスや消耗資材等購入の事業費297.2千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額は、300.0千円でした。

(3) イオン黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーンの投函箱を、マックスバリュース南延岡店/岡富店・イオン日向店に設置しています。投函されたレシート金額の1%が団体に商品券で寄贈されます。2021年度は、44.7千円の商品券が寄贈されました。

(4) ろうきんNPO寄附

預金者が応援したいNPO法人へ、希望する金額を希望する日に、預金者に代わって普通預金口座から寄附先団体の口座に自動振替する制度で、1回の寄附額は100円以上（100円単位）です。3名

の方から計10.4千円の寄附がありました。

(5) 久光製薬ほっとハート

「久光製薬ほっとハート」は、2007年に創業160周年記念事業の一環として設立した「マッチングギフトクラブ」制度です。当倶楽部の趣旨に賛同した役員及び従業員が会員となり、会員が毎月拠出した金額に対し、会社が同額を上乗せして集まった運営基金を社会貢献活動に役立てています。森の学舎にて、福岡支店長さんから100.0千円の寄附をいただきました。

(6) 他寄附

横山理事長の各プログラムでの人件費等(79.9千円)と鶴戸理事から10.0千円の寄附がありました。他、4名の方より計24.4千円の寄附をいただきました。

(7) 門川町がんばる地域応援事業

休耕田復活プロジェクトの事業費169.8千円(ボランティア評価除く)に対して、参加費収入が18.7千円と150.0千円の助成を受ける予定です。

4. その他

(1) 宮崎県緑化功労者(知事賞)

みやざき森づくりボランティア協議会の推薦により、宮崎多目的広場(みやざき臨海公園)で11月3日に開催された第16回「水と緑の森林づくり」県民ボランティアの集いで、宮崎県緑化功労者(知事賞)の表彰を受けました。受賞式は、横山理事長・横山理事・加納理事の3名が参加しました。

(2) 森づくりボランティア協議会

横山理事長が、当会の理事に就任しています。横山理事長は、宮崎市内で開催される理事会に出席しています。

(3) 認定NPOの取得

多額の費用が必要となる活動の資金調達を目的としての認定NPOの取得について、昨年度初めから県の生活・協働・男女参画課と書類のやりとりを進めながら、昨年(2020年)8月28日付けで認定NPOの取得が完了しました。認定有効期限は、令和7年8月27日までの5年間になります。

(4) 森林づくりシンポジウム

森林環境税を活用して、森林ボランティア団体の森林づくり意識を共有するとともに、県民に森林ボランティア及び森林づくりへの興味・関心を高めるために、2022年3月10日(木曜日)に「森林づくりシンポジウム」が、宮崎県主催で開催されました。

シンポジウムには3団体(子どもの森、MFV会、大塚台緑地林里山整備実行委員会)の代表がパネラーとして参加し森づくりの活動の様子を発表し意見交換をおこないました。子どもの森からは、横山理事が出席しています。

ユーチューブチャンネル(https://www.youtube.com/watch?v=EV_GgGqFSmM)で当日のシンポジウムの様子を見ることができます。

(5) リユースPC

イーパーツから、デスクトップPC(NEC Mate本体のみ)とノートPC(NEC PC-VK27M)の受贈がありました。デスクトップPCは、事務局で使用し、ノートPCは、加納理事で使用しています。

イーパーツは、リユースPCを無償で寄贈する活動やシンポジウムの開催等を通して、非営利団体・ボランティア団体・高齢者や障害者グループの支援を目的とする認定特定非営利活動法人です。

(6) 古民家再生

3/30、4/4、11、14、26の5日間に、前住人の残っていた不用品のかたづけを行いました。古民家再生にかかる時間と人員(ボランティア等)を確保ができませんでした。

2021年度事業経過一覧（※事務局のみ活動は一覧には未掲載）

実施日		活動名	内容/備考
4月	11(日)	監査	
	12(月)	理事会	
	25(日)	総会	
5月	1, 2, 3, 4, 5	森の学舎整備 休耕田復活プロジェクト 「ecoスクール」準備	グラウンドの草刈り 畦の整備 ecoスクール麦畑の草取
	15(土)	①ecoスクール	麦刈り、
	23(日)	「ecoスクール」準備	②の準備
	29(土)	②ecoスクール	麦脱穀、堆肥作り
6月	6(日)	①休耕田復活プロジェクト	田植え
	15(水)	理事会	
	27(日)	②休耕田復活プロジェクト	草取り
	27午後	臨時総会	
7月	4(日)	①お地蔵さんの森	草刈り
	11(日)	③休耕田復活プロジェクト 黄色いレシートキャンペーン	草取り イオン日向店
	18(日)	「ecoスクール」準備	③の準備
	24(土)	③ecoスクール	ビオトープ観察、河川清掃、水生動物観察
	31(土)	「川をたのしく親しもう」準備	
8月	1(日)	川をたのしく親しもう	
	28(土)	④ecoスクール	環境学習
9月	4(土)	「ecoスクール」準備	海水汲み
	26(日)	②お地蔵さんの森	昇降道の制作、樹木調査
10月	3(日)	森の学舎整備 理事会	草刈り
	10(日)	2号風呂小屋建替え	
	17(日)	⑤休耕田復活プロジェクト	稲刈り
	31(日)	⑥休耕田復活プロジェクト	米脱穀
11月	7(日)	③お地蔵さんの森	昇降道の制作
	14(日)	「ecoスクール」準備	⑤の準備
	20(土)	⑤ecoスクール	麦畑作り
	28(日)	「森であそぼう」準備	
12月	5(日)	森であそぼう	
	11(土)	⑥ecoスクール	酵母、ネイチャー工作
	19(日)	⑦休耕田復活プロジェクト	餅つき
	30(木)	ピカピカ大作戦	森の学舎大掃除
1月	8, 9, 10	炭焼窯小屋修理とアヤマ園作り	
	16(日)	「ecoスクール」準備	
	22(土)	⑦ecoスクール	塩作り、小麦挽き
	29, 30	パン釜小屋屋根修理	
	30(日)	④お地蔵さんの森	枝打ち等
2月	12(土)	⑧ecoスクール	パン作り
	27(日)	⑤お地蔵さんの森	樹木プレート設置
3月	6(日)	妖精の森 理事会	竹伐採
	10(木)	森林づくりシンポジウム	横山理事出席
	12(土)	2号風呂小屋制作	基礎のみ
	13(日)	「春をたのしもう」準備	
	21(月祝)	春をたのしもう	
	27(日)	小さな森のマルシェ	ブース出店

報告事項Ⅱ. 2021年度活動決算報告

2021年度 特定非営利活動に係る活動計算書
(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	53,000		10人×5,000、特別:3人×1,000
賛助会員受取会費	11,000	64,000	2人×5,000、特別:1人×1,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金	268,407		イオン黄色いレシート、ろうきんNPO寄附金、久光製薬、横山理事長、猫戸理事 他
ボランティア受入評価益	645,007	913,414	宮崎県の最低賃金にて評価
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,052,915	子どもゆめ基金、森林づくり応援団活動支援、門川町がんばる地域応援事業
4. 事業収益			
自主事業収益		206,450	各プログラム参加費、小さな森のマルシェ出展 他
5. その他収益			
雑収入		12,612	昨年度ecoスクール参加費計上漏れ、預金利息 他
経常収益計			2,249,391
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	288,488		各プログラム
ボランティア評価費用	645,007		宮崎県の最低賃金にて評価
人件費計	933,495		
(2)その他経費			
修繕費	77,334		機材の点検修理、パン窯屋根用建材、2号風呂建替え用建材 他
諸謝金	109,500		各プログラム講師
印刷製本費	25,080		ecoスクールチラシ印刷(業者)
旅費交通費	115,425		各プログラム
通信運搬費	4,100		各プログラム
消耗品費	589,613		各プログラム、薪バケツ、モルック、食器棚、ハンモック 他
損害保険料	20,520		各プログラム
その他経費計	941,572		
事業費計		1,875,067	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
Web運営費	0		
旅費交通費	0		
通信運搬費	39,073		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	26,838		テプラ、ネットワークHD 他
修繕費	6,600		プリンター修理
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	0		
研修費	0		
租税公課	1,500		印紙 他
施設管理費	164,725		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代)
雑費	19,358		昨年度ecoスクール助成金減額、リユースPC、小さな森のマルシェ出展 他
その他経費計	261,094		
管理費計		261,094	
経常費用計			2,136,161
当期正味財産増減額			113,230
前期繰越正味財産額			1,633,679
次期繰越正味財産額			1,746,909

各プログラム:「四季をまるごと体験ecoスクール(ecoスクール)」「昆虫と友だちになろう」「森であそぼう」「春を楽しもう」

「お地蔵さんの森」「休耕田復活プロジェクト」

ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。(10/2まで793円/H、10/3以降821円/H)

管理費のボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、計上していない。

2021年度 事業別活動計算書

科目	ecaスクール	川をたのしく親しまおう	昆虫の写真をとろう	森であそぼう	春を楽しもう	お地蔵さんの森	森の学舎整備(ビオトープと竹林整備を含む)	休耕田復活プロジェクト	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益											
1. 受取会費											
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	53,000	53,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	11,000	11,000
2. 受取寄附金											
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	--	--	268,407	268,407
ボランティア受入評価益	103,065	10,309	0	9,031	34,485	29,320	230,372	228,425	645,007	197,250	842,257
3. 受取助成金等											
受取助成金	385,112	75,508	23,295	73,000	66,000	280,000		150,000	1,052,915	--	1,052,915
4. 事業収益											
自主事業収益	87,500	19,500	0	14,400	18,400	20,000	--	18,700	178,500	27,950	206,450
5. その他収益											
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	--	--	12,612	12,612
経常収益計	575,677	105,317	23,295	96,431	118,885	329,320	230,372	397,125	1,876,422	570,219	2,446,641
II 経常費用											
(1) 人件費											
賃金	198,488	31,800	3,000	36,000	19,200	--	--	--	288,488	--	288,488
ボランティア評価費用	103,065	10,309	0	9,031	34,485	29,320	230,372	228,425	645,007	197,250	842,257
人件費計	301,553	42,109	3,000	45,031	53,685	29,320	230,372	228,425	933,495	197,250	1,130,745
(2) その他経費											
修繕費	--	--	--	--	--	13,860	63,474	--	77,334	6,600	83,934
諸謝金	18,000	0	0	--	5,000	63,500	--	23,000	109,500	--	109,500
印刷製本費	25,080	--	--	--	--	--	--	--	25,080	--	25,080
Web運営費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	0	0
旅費交通費	70,325	7,075	0	8,050	13,350	--	--	16,625	115,425	0	115,425
通信運搬費	2,470	370	370	370	520	0	--	--	4,100	39,073	43,173
消耗品費	131,407	34,635	295	24,238	25,171	203,254	48,989	121,624	589,613	26,838	616,451
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	0	0
研修費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	0	0
損害保険料	7,440	1,500	0	1,300	1,700	--	--	8,580	20,520	0	20,520
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	--	--	1,500	1,500
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	164,725	164,725
雑費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	19,358	19,358
その他経費計	254,722	43,580	665	33,958	45,741	280,614	112,463	169,829	941,572	261,094	1,202,666
経常費用計	556,275	85,689	3,665	78,989	99,426	309,934	342,835	398,254	1,875,067	458,344	2,333,411
当期経常増減額	19,402	19,628	19,630	17,442	19,459	19,386	△ 112,463	△ 1,129	1,355	111,875	113,230



休耕田復活プロジェクト

《参考》

2021年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	68,000		13人×5,000、特別会員:3人×1,000
賛助会員受取会費	11,000	79,000	2人×5,000、特別会員:1人×1,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金	200,000		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
ボランティア受入評価益	--	200,000	
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,109,000	子どもゆめ基金、森林づくり応援団活動支援
4. 事業収益			
自主事業収益		154,000	各プログラム参加費、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		12	預金利息 他
経常収益計			1,542,012
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金	376,500		各プログラム、お地藏さんの森
ボランティア評価費用	--		
人件費計	376,500		
(2)その他経費			
修繕費	45,300		森の学舎、お地藏さんの森機材
諸謝金	50,000		各プログラム、お地藏さんの森
印刷製本費	42,000		ecoスクールチラシ印刷(業者)
Webページ運営費	15,000		お地藏さんの森
旅費交通費	172,150		各プログラム 他事業すべて
通信運搬費	5,930		同上
消耗品費	513,060		同上
損害保険料	14,360		各プログラム
その他経費計	857,800		
事業費計		1,234,300	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
Webページ運営費	3,900		お地藏さんの森
旅費交通費	10,000		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	31,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	39,000		文房具、お茶代 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	3,000		総会
研修費	5,000		各種研修、会員プログラム参加への充当
租税公課	2,300		印紙、印鑑証明 他
施設管理費	170,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	0		
その他経費計	267,200		
管理費計		267,200	
経常費用計			1,501,500
当期正味財産増減額			40,512
前期繰越正味財産額			1,633,679
次期繰越正味財産額			1,674,191
			森の学舎修繕費目的積立¥1,000,000含む

特定非営利活動に係る貸借対照表（2022年3月31日現在）

特定非営利活動法人 子どもの森

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	76,651		
普通預金	1,115,266		
未収金	601,112		
前払金	14,838		
流動資産合計		1,807,867	
2 固定資産			
備品	2,085,000		
減価償却累計額	△2,084,997	3	
固定資産合計			3
資産合計			1,807,870
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	60,961		
前受金	0		
未払金	0		
流動負債合計		60,961	
負債合計			60,961
III 正味財産の部			
基本金	1,633,679		
当期正味財産増加額(減少額)	113,230		
正味財産合計			1,746,909
負債及び正味財産合計			1,807,870

2021年度 特定非営利活動に係る財産目録
(2022年3月31日現在)

特定非営利活動法人 子どもの森

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	76,651	
普通預金	宮崎太陽銀行門川支店	1,048,585	
普通預金	九州ろうきん延岡支店	31,681	
普通預金	ゆうちょ	35,000	
未収金	子どもゆめ基金	451,112	
未収金	門川町がんばる地域応援事業	150,000	
前払金	事務局電話代(金子幸一)	14,838	
流動資産合計			1,807,867
2 固定資産			
機械及び装置	チッパ-シュレッダ- (新タ'イ7CSE50-W)	253,050	
	チッパ-シュレッダ- (大橋GS121GB)	1,330,350	
	耕うん機 (HONDAヒ'アンタ)	102,600	
	簡易炭窯 (テサT105型)	399,000	
減価償却累計額		△2,084,997	3
固定資産合計			3
資産合計			1,807,870
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金		60,961	
前受金		0	
未払金		0	
流動負債合計		60,961	
負債合計			60,961
正味財産(注)			1,746,909

(注) 正味財産は「資産合計」より「負債合計」を減じた金額を記載する。
これが登記すべき「資産の総額」である。

上記財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 子どもの森

監査

佐藤 伸光



※未収金：子どもゆめ基金（四季をまるごと体験eこスクール、春を楽しもう）

報告事項Ⅲ. 監査報告

監査報告書

2021年4月1日から2022年3月31日までの理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告します。

監査の結果

- この法人の会計の方法及びその結果は、相当であると認めます。
- 財産目録は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 貸借対照表は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 活動計算書は、法令及び定款に従い、この法人の状況を正しく示していると認めます。

2022年4月 10日

特定非営利活動法人 子どもの森

監事 佐藤 伸光 



森の学舎整備（草刈り、旧2号風呂撤去）

議案 I . 2022年度活動方針(案)

1. 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

5 (1) 子どもと保護者の環境教室(四季をまるごと体験e c oスクール)

地域の小学生(3年生以上)及び保護者に対して、パン作りによる食と環境を切り口に、同一の参加者が、年間(四季)を通して、四季折々の自然環境を遊びや観察等から学び、麦栽培等の農業体験、そして農業体験を通して自分たちで作った食材料からパン作りを経験します。輸入に頼らなくても食が可能であることを実感し、食べ残しを極力少なくすることや食品の輸入による過大なエネルギーを減少させることで、地球環境への負荷を少なくした生活を実践してもらうための気づきを促します。他に、自然環境を遊びや観察等の原体験を通して、中山間地域である里山の自然環境の大切さと保全の必要性を学習するプログラムを提供します。

15 主テーマ: 輸入に頼っている小麦を地産することで、輸送に係るエネルギーを減らすことができることを学ぶ。

5/21 (土)	開校式	・学校名や学年、活動に参加した目的などの自己紹介。 ・初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム実施。
	麦刈り	・前年度に種まきをして育った麦の刈りとり。 ・刈りとった麦の稲架かけ。

主テーマ: 輸入に頼っている小麦を地産することで、輸送に係るエネルギーを減らすことができることを学ぶ。ごみゼロを目指すライフスタイル「zero waste life(ゼロ・ウェイスト・ライフ)」の一環として、日々の暮らしのなかでコンポストによる生ごみの堆肥化を実践する。

5/28 (土)	麦畑用堆肥づく コンポスト)	・第6回におこなう麦畑作りで使用する堆肥作り。(ダンボールにピートリ(ダンボールモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循環、家庭での堆肥の作り方管理を学ぶ。)
	脱穀	・第1回で刈りとった麦を足踏む式脱穀機で脱穀。
	風選	・脱穀した麦のもみ擦り。 ・唐箕を使って脱稈(だっぶ)。

主なテーマ: 廃棄すると海洋ごみとなるペットボトルを再利用する。

6/18 (土)	イカダづくり	・ペットボトルを活用して、第4回の河川清掃で使用するイカダを制作する。
-------------	--------	-------------------------------------

20 主テーマ: 海洋ごみが河川から海に流れ込んでいることを知り、その影響を学ぶ。

7/30 (土)	河川清掃	・前回で制作したイカダを使って、森の学舎の前を流れている五十鈴川岸のゴミ拾いを行う。
	水生動物観察	・多くの種の命の大切さを学び、豊かな自然環境が、動植物の食物連鎖や生態系に必要なものであることを学ぶため、魚等の水生動物の観察を行う。

主テーマ: 身近な自然について興味・関心を持ってもらうために、昆虫を観察し昆虫に触れ、名前や生態を学習する。太陽熱利用は、家庭でガス代・電気代・石油代の節約に役立つことをソーラークッキングで実感する。

9/10 (土)	森の学舎グラウンドと周辺の土手や田んぼ畑での昆虫観察と昆虫写真撮影	・指導者から昆虫の名前や生態等を聞きながら昆虫観察と写真撮影をする。
	ソーラークッキング ※雨天時: 樹木調査	・太陽光を集めると、高温になること(目玉焼きで実験)を知り、CO ₂ の発生が0%であることに気づく。(CO ₂ の発生は、地球の温暖化防止には、重要なことを講話し、省エネの生活をするように意識させる。) ※雨天時: お地藏さんの森に自生している樹木の特徴や名前を覚える。

25 主テーマ: 植物(麦)が、季節を永遠に循環(前世代から引き継ぎ次世代に引き継いで行く)していることを実感する。

11/12 (土)	麦畑づくり	・畑の草取りをおこなう。 ・耕うん(ダンボールコンポストの堆肥も一緒に)をする。
	麦蒔き	・麦種を蒔き土を被せる。

主テーマ：沿岸部の海水がきれいだからこそ、パン作りに必要な塩を海水から作ることができることを知る。

12/17 (土)	海の豊かさを守ろう	・海の汚染の 8 割は陸地からの影響であり、二酸化炭素や農業及び工業排水、未処理の下水や油、栄養塩類、堆積物、海洋ごみなどが陸地から海に流れ込み、悪影響を与えていることを学習する。
	簡易釜戸設置	・ブロックを使って 4 カ所の釜戸の土台をグラウンドに作り、その上に簡易釜戸を設置。
	塩作り	・海水を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。 ・塩づくりの副産物であるにがりも採取。 ・採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。
	麦踏み	・第 6 回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏を行う。

主テーマ：自然に存在する酵母、穀物や果実などについている酵母菌を培養する。

2022 1/21 (土)	陸の豊かさも守ろう	・陸地の生物多様性があるから酵母菌が多種に存在することを切り口とし、生態系の保護と回復、砂漠化への対策と森林の保護などを学習する。
	イチゴ酵母作り	・食品瓶に、パンで必要となる酵母を仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる）
	麦踏み	・第 6 回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏を行う。
	小麦挽き	・第 2 回で脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。
	掃除	・石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。

主テーマ：お楽しみみのパン作り

2/18 (土)	バター作り	・パン生地に練りこむバターを、生クリームと牛乳で作る。
	パン作り	・作った塩と挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。 ・1 次発酵を済ませて、想いおみの形にパン形成。
	パン焼き、感想文	・パン焼きする順番に 2 次発酵して釜でパン焼き。 ・パン焼きの順番まで、感想文書き。 ・焼いたパンを試食。
	閉校式	・修了証の授与。

5

- ・参加数：23人（県北地域の小学生3年生から6年生15人と保護者8人）
- ・場所：森の学舎
- ・助成：子どもゆめ基金
- ・外部講師：山下みよ子氏（ダンボールコンポスト）※宮崎県ダンボールネットコンポストネットワーク協会
新開孝氏（昆虫観察と昆虫写真撮影）※昆虫写真家

10

（2）休耕田復活プロジェクト

昨年度に復活した休耕田で、今年度も継続して米作り活動していきます。

15

耕作放棄地を復活させて里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあって存在する魅力や価値を後世に繋いでいきたい、松瀬地区の休耕田を復活させ無農薬で無機械による米作り体験の場とします。

20

田んぼを復活させ無農薬で無機械による米作り体験の場として、地元農家の方（新田さん）と一緒に活動を進めていきます。一般参加者を募って、田植え（もち米）、年2回の草取り、稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施していきます。

田起しや田植え後の日常の田んぼ管理は地元農家の方が、請け負ってくれることになっていますが、田起こし前に、田んぼの草刈りや、田んぼの周りの竹伐採や苗が育成中の稗（ひえ）取りは、子どもの森で実施します。田んぼ環境学習のため広めの畔が必要となるため、田起し直後に畔の拡張も行います。

25

1) 5月（GW）：スタッフで田んぼの草刈りと畔拡大

2) 6/5：田植え

3) 6/26：草取り、ネイチャーゲーム

4) 7/10：草取り、田んぼの環境調査

5) 10/16：稲刈り

30

6) 10/30：脱穀

7) 12/4 : 収穫祭 (餅つき)

「門川町がんばる地域応援事業」の活動としての申請をします。協働してくれる地元農家の方への指導料支払いと必要な消耗品の購入、ボランティアスタッフの交通費支払いをしたいと思

5

います。稲刈り後の田んぼ保全のためレンゲ畑とします。そして、レンゲを使つての活動を理事会で検討したいと思います。

収穫したもち米は、参加者とボランティア、スタッフで分配、古民家再生でのクラウドファンディングの返礼品としたいと思います。

10 2. 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

(1) 妖精の森

2009年から続けている森の学舎裏の放置されている竹林の一部を落葉樹の林に変えて行く活動は、地権者と正式に山林使用協定を結べない事情があるので、他活動で必要となる竹の伐採にとどめます。また、新たに生えてくる竹の除去は続けて行きます。

15

(2) お地藏さんの森 (森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動)

手入れが行われず放置されている里山と、その里山と隣接している五十鈴川支流のオモボリ谷と菅の谷の合流する沢 (松瀬川と称す) を子供たちが入り遊ぶことができる森林づくりを2019年度から実施しています。

20

整備した里山と松瀬川、そして森の学舎を一体的に活用し、子どもやその保護者を対象とした森林の動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能を知るための体験型環境学習を実施するためのフィールドとして活用します。

また、作業スペースに活用できる廃道と樹木名プレートを探索する場所の草刈りを実施します。

25

3. 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

(1) 春の野草を活用した里山体験 (春を楽しもう)

春になって野草の芽吹きに触れることで自然に対して興味・関心を高め、野草の名前を覚え食することで自然の恵みが身近なところにあることを確認します。この活動を通して自然環境を大切に思い守る意識の認識してもらいます。

30

① 野草観察：指導者やスタッフと一緒に森の学舎と周辺を散策し、生息する野草などの説明を受ける。野草の名前や特徴を覚えることで、地域の身近な自然に対する興味・関心を高める。スタッフと参加者で知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図り、屋外での活動となるため指導者の説明が十分に伝わるよう配慮します。

35

② 参加者で昼食作り：食べることができる野草を食べる分だけ摘んで調理する。野草を食べることで自然の恵みへの感謝の気持ちを認識する。調理それぞれに、スタッフを配置しスムーズな調理の流れに配慮します。

40

・開催月：2023/3/26 (日)

・参加数：子ども15人、保護者10人 (子どもが過半数を超えること)

・場所：森の学舎

・助成：子どもゆめ基金

45

・外部講師：成迫平五郎氏 (野草観察)

参加者の五感を使った活動とするために、受身の受講とせず、スタッフと一緒に調理をして交流を図り印象を強く残すように配慮します。

50 4. 地場産業の振興、街づくり、人づくり

一昨（2020）年8月27日に、認定NPO法人に承認されました。認定NPO法人に寄付をする
と、寄付額が所得税の寄附金控除になりますので、寄付を集めやすい環境が整っています。地域の
サードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、
地域の農産物場販売所など多様な利用方法があると思われま）として、美郷町北郷黒木にある築
5 115年の古民家を再生し活用するための費用を調達するために、認定NPO法人の申請をしまし
た。

この古民家は、柱や床などがシロアリ被害によって、家全体が歪んでいるので業者による家屋調
査、その後に躯体修復作業を施して、躯体修復が終わったらワークショップで床や壁などの施工を
10 進めて行きます。また、前住人が不要な荷物や家具をそのままに放置している荷物や家具が若干残
っていますので、かたづけを進めます。

業者による躯体改修作業ができる状態になったら、クラウドファンディングにて資金調達をして
いきます。

※サードプレイスとは、仕事に関わる「職場」やプライベートな「家庭」とは異なる3つ目の居
場所を指す言葉です。ただし、それは単に居場所があればサードプレイスになるわけではありません。
インフォーマルな公共の空間で、上下関係のない人々が自由に会話を交わすことができる
という環境は、人々に自尊心を取り戻させたり精神的なゆとりを与えたりするのです。サードプ
レイスの代表例としては、ドイツの居酒屋やイタリアの食堂などであり、人々のコミュニケーシ
ョン欲を満たす場所として機能しています。コミュニティのような義務や権利が存在しないの
もサードプレイスの特徴です。

15 5. 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

地域の課題に対して何かの役に立ちたいと思い、地域活動に参画する意向のある人は増えてきて
います。そうした動きに対して行政も、地域の活性化、雇用の確保、行政サービスの補完等の観点
で関心を持っています。しかし、意欲のある人や団体でも、具体的な始め方、仲間や協力者の見
つけ方、必要な知識やスキルの身に付け方等、いくつかのハードルの存在が想定されます。従って、
20 それらを克服し、参加意欲を実際の行動に結び付けていけるような支援の仕組みを地域に構築する
ことの必要性があります。市民活動の活性化に関わる企画やコーディネート等、何らか携わること
ができればと考えています。

25 6. 活動の情報発信・啓発のための事業

活動を告知することで活動の参加者を募集し、活動の内容を情報発信することで子どもの森の活
動への理解を通して、自然環境の大切さ、地域を良くするための協働への参画を促していきます。

(1) Webサイトの運営

子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、Webページにて発信していきます。また、
30 Webページでは発信しづらい細かい情報は、facebookで発信していきます。

(2) 機関紙の発行

子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信19号」を発行するこ
とで情報発信をします。

(3) 事業案内チラシの作成

宮崎県や関係行政機関等の後援を依頼して、それぞれの事業を開催する3ヶ月前までに、新聞
社へ参加者募集の記事依頼と、図書館や公民館等の公共機関へのチラシ配布を行います。

40 7. その他目的を達成するために必要な事業

(1) ビオトープ

ビオトープは、ミニ田んぼ・水路・池とつながった一連の水辺環境で、森の学舎隣の地区集会

場にある水タンクからオーバーフローしている水をホースで引いています（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水をホースで注いでいる）。ビオトープの活用にあたり必要な改修改善を行なっていきます。水辺に生息する草や水生生物は、人工的に持ってこず自然の復元力に委ねます。

四季をまるごと体験ecoスクールで、水辺のいきもの観察や麦作りを行い自然環境の観察等を行います。

ビオトープの様子は、WebページやFacebook、機関誌で紹介していきます。

(2) 活動拠点「森の学舎」の活用と整備

2006年11月に、公募により門川町から譲与を受けた旧西門川小学校松瀬分校は、2008年度に、日本財団と連合愛のキャンパからの助成金を受け、会員その他ボランティアによって修繕を進めてきました。また、ボーイスカウト等の団体を含めた一般開放、森林や環境等の図書や児童書・絵本を整備して環境文庫の設置などの整備を行なってきました。そして、2009年度は、セブンイレブンみどりの基金と門川町まちづくりプレイヤー支援、連合愛のキャンパからの助成を受け、五右衛門風呂小屋と釜戸小屋の製作と、薪ストーブの設置、環境関連図書の購入を進めてきました。

行政が絡んでいない民間団体での廃校活用は他に例がなく、森の学舎は廃校になった学校の先駆的な活用例として注目されています。森の学舎と周辺地域との関係も視野に入れ、環境問題を切り口とした地域コミュニティとしての役割など、廃校の更なる活用も目指していかなくてはなりません。

2010年度で、急ぎ必要な森の学舎の整備は終わったと思われます。これからは、どのような整備が必要かを検討しながらの整備を進めていきます。そのための資金として、特別積立金の設定をしています。森の学舎の開放と森の学舎で行なう環境学習の依頼があれば受入をしています。初夏と秋にグラウンドと周辺の草刈りを実施します。

今年度は、老朽化した釜戸小屋と五右衛門風呂小屋を、日本郵便より「年賀寄付金による社会貢献事業助成」を受けて業者に委託して建て替えます。また昨年度から手掛けている五右衛門風呂2号小屋の建て替えを終了させます。

環境関連図書（環境文庫）の設置をしてから、15年が経過しています。その間、増えた図書の整備を行っていません。今年度は、蔵書している図書の見直し整備を行いたいと思います。

(3) 子どもの森が加盟する団体

今年（2022年）度も引き続き「みやざき森づくりボランティア協議会」に、団体会員として加盟します。同協議会での総会や研修会への参加をすることで、同じ森づくりや環境問題に取り組んでいる団体との交流ができます。また、同協議会が開催する研修会では、森づくり活動への考え方や森林作業の学習等を学べます。宮崎県内の森づくりを実施している団体の相互協力と交流、森づくりの研修が、本協議会の活動の中心となっています。可能な限り協議会が開催する総会や研修への参加や協力を行っていきます。

(4) 黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーン投函ボックスは、イオングループで1店舗のみの登録となったため、「イオン日向店」にお願いすることにします。黄色いレシート発行の日の11日が土日または、祝日となる日を選んで、イオン日向店においてのキャンペーン協力に参加したいと思います。

8. 助成について

今年度の活動への助成金は下表のとおりです。

助成名	助成元	助成事業	助成額
子どもゆめ基金	国立青少年教育振興機構	四季をまるごと体験ecoスクール	668千円（申請） （確定）575千円
		春を楽しもう	138千円（申請） （確定）131千円

年賀寄付金による 社会貢献事業助成	日本郵便株式会社	釜戸小屋と五右衛門風呂小屋の 建替え事業	800千円（申請） （確定）800千円
門川町がんばる地 域応援事業	門川町	休耕田復活プロジェクト	100千円（申請予定）

9. 次年（2023年）度以降の活動

- 5 これまでのプログラム（自然体験活動）を継続実施することとしますが、川をフィールドとする活動は7月末から8月初めになります。川をフィールドにする活動が複数あると台風による川の増水や雨による延期に対応できないため、次年度以降も一つに絞ります。今年度は、「川をたのしく親しもう」を未開催として、四季をまるごと体験 eco スクールのイカダでの河川清掃を実施します。次年（2023年）度は、四季をまるごと体験 eco スクールのイカダでの河川清掃を取り止め、「川をたのしく親しもう」を開催します。
- 10 森づくりについてですが、次年（2023年）度「お地蔵さんの森」は、樹木伐採や沢への昇降道の整備が昨年（2021年）度に終了しているため、自然体験活動でのフィールドとしての活動とメンテナンス的整備を実施して行きます。「妖精の森」は、生えてくる竹の伐採を実施し、「子どもの森1号地」と「GOCANの森」は、経過観察をして行きます。
- 15 他に、将来の自然体験活動として、ネイチャー工作の一環となるコケ玉・樹木カレンダー・門松づくり、つる工作等の特色ある計画を練っていきます。
- 20 古民家再生は、資金が揃えば、業者による家屋修復は実施できると思いますが、ワークショップによる室内再生まで行うのは難しいと思われるので、次年度も引き続きおこなうことになると思います。古民家再生の予算案については、業者による見積りが終わり、クラウドファンディングをスタートする時点で、計画を立案して会員に提示します。



川をたのしく親しもう



森であそぼう



春を楽しもう



小さな森のマルシェ

議案Ⅱ. 2022年度活動計画書(案)

2022年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	58,000		11人×5,000、特別会員:3人×1,000
賛助会員受取会費	11,000	69,000	2人×5,000、特別会員:1人×1,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金	160,000		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
ボランティア受入評価益	--	160,000	
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,606,000	子どもゆめ基金、年賀寄付金による社会貢献事業、門川町がんばる地域応援事業
4. 事業収益			
自主事業収益		168,000	各プログラム参加費、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		12	預金利息 他
経常収益計		2,003,012	
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金	273,000		各プログラム
ボランティア評価費用	--		
人件費計	273,000		
(2)その他経費			
修繕費	10,000		2号五右衛門風呂小屋
諸謝金	945,000		各プログラム、休耕田復活プロジェクト、小屋建替え
印刷製本費	30,000		ecoスクールチラシ印刷(業者)
広告宣伝費	50,000		春を楽しもう(新聞広告)
旅費交通費	158,300		各プログラム 他事業すべて
通信運搬費	47,100		同上
消耗品費	309,000		同上
損害保険料	29,100		同上
その他経費計	1,578,500		
事業費計		1,851,500	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
修繕費	5,000		バッテリー
Webページ運営費	15,000		ドメイン・サーバー使用料(3年分)
旅費交通費	10,000		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	39,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	10,000		文房具 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	3,000		総会、理事会
研修費	5,000		各種研修、会員のプログラム参加費への充当
租税公課	1,500		印紙、印鑑証明 他
施設管理費	165,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	355,000		古民家屋調査費用は、建設仮定で資産計上とする
その他経費計	611,500		
管理費計		611,500	
経常費用計		2,463,000	
当期正味財産増減額		△ 459,988	
前期繰越正味財産額		1,746,909	
次期繰越正味財産額		1,286,921	森の学舎修繕費目的積立¥1,000,000含む

各プログラムとは、「四季をまるごと体験ecoスクール」「春を楽しもう」

小屋建替えとは、「釜戸小屋と五右衛門風呂小屋」

- 5 ※会費 正会員：5,000円(ただし特別正会員は1,000円) 賛助会員：5,000円(ただし特別賛助会員は1,000円)
特別正会員とは、社会に出る前の大学生や専門学校生と、同一世帯で2人以降の正会員で、総会での議決権など、通常の正会員と同じ権利を有します。特別賛助会員とは、同一世帯で2人以降の賛助会員です。

※目的積立：将来の大規模な森の学舎修繕に備えた積立をおこないます。現在、雨漏りがあるためシートで応急処置をしていますが、修繕費が認められる助成金等にて雨漏り修繕をしたいと考えています。その時に、目的積立を取り崩して自己資金部分に充当させます。

- 10 ※20名以上の参加者がないとボランティア保険の対象とならないため、各プログラム(四季をまるごとecoスクール、春を楽しもう、田んぼ復活プロジェクト)以外の活動への参加での事故やケガについては自己責任でお願いします。(ご自身の加入している損害保険での対応をお願いします)

※他に、古民家再生に係る収支が発生した場合には、補助科目(活動名)を増やして会計処理していきます。

《参考》

2022年度 事業別活動計画書

科 目	四季をまるごと体験ec.オスクール	春を楽しもう	休耕田復活プロジェクト	小屋建替え	森林整備	森の学舎整備(ビオトープを含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	58,000	58,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	11,000	11,000
2. 受取寄附金									
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	160,000	160,000
3. 受取助成金等									
受取助成金	575,000	131,000	100,000	800,000	--	--	1,606,000	--	1,606,000
4. 事業収益									
自主事業収益	125,000	18,000	15,000	--	--	--	158,000	10,000	168,000
5. その他収益									
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	12	12
経常収益計	700,000	149,000	115,000	800,000	0	0	1,764,000	239,012	2,003,012
II 経常費用									
(1)人件費									
賃金	248,000	25,000	--	--	--	--	273,000	0	273,000
人件費計	248,000	25,000	0	0	0	0	273,000	0	273,000
(2)その他経費									
修繕費	--	--	--	--	--	10,000	10,000	5,000	15,000
諸謝金	47,000	10,000	35,000	853,000	--	--	945,000	--	945,000
印刷製本費	30,000	--	--	--	--	--	30,000	--	30,000
Webページ運営費	--	--	--	--	--	--	--	15,000	15,000
広告宣伝費	0	50,000	--	--	--	--	50,000	--	50,000
旅費交通費	128,400	9,900	20,000	--	--	--	158,300	10,000	168,300
通信運搬費	47,100	0	--	--	--	--	47,100	39,000	86,100
消耗品費	172,900	44,100	36,500	45,500	10,000	--	309,000	10,000	319,000
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
研修費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
損害保険料	18,600	2,000	8,500	0	0	0	29,100	--	29,100
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	1,500	1,500
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	165,000	165,000
雑費	--	--	--	--	--	--	--	355,000	355,000
その他経費計	444,000	116,000	100,000	898,500	10,000	10,000	1,578,500	611,500	2,190,000
経常費用計	692,000	141,000	100,000	898,500	10,000	10,000	1,851,500	611,500	2,463,000
当期経常増減額	8,000	8,000	15,000	△ 98,500	△ 10,000	△ 10,000	△ 87,500	△ 372,488	△ 459,988

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用については、活動計画書には反映させませんが活動計算書(決算報告)では計上させます。



事務局/森の学舎：宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1

TEL 0982-63-0009 携帯：080-2696-5180

<https://kodomonori.info>

info20@kodomonori.info

facebook <https://www.facebook.com/npo.kodomonori>

協働創出市サイト <http://dp25242621.lolipop.jp/kyoudou>